



ある世代が地域を育て、その地域が次世代を育てる。非常時に助け合いたいという感情は、そのつながりがあってこそ生まれるものかもしれません。

たとえば被災地の子ども遊び場作りには携わっているNPOの代表は、「子どもたちが遊び始めれば、ついでに親がやがて他の子どもも面倒を見始める」と語っています。「母のように、いつか私も地域のお手伝いを」と話してくれる若いお母さんたちもいます。

3・11震災から2年「きずな」という言葉が日本を支えたあの時から、地域の大切さが注目されています。もし関東を直下型地震が襲った時、私たちの地域は何ができるでしょうか。

はなみずき

発行 東部区民活動センター運営委員会
〒164-0011 中野区中央2-18-21
TEL 3363-0631 FAX 3363-0632

2013.3.15 第8号



町会は餅つきの思い出から

歩き始めてまもない幼児と母親が集まる「びよびよひろば」で、若いお母さんたちに聞いてみました。

「町会は何をしているイメージ？」

Aさん…町会の名前も、自分が入っているかも分かりません。そう言えば餅つきのお知らせがあったけど、あれは町会がやってるんですか。

Bさん…町会？ お年寄りが多いのかな、というイメージです。

Cさん…町会、入ってます。実家にいた時は、お餅つきにも他の行事にも行きました。母が町会のお手伝いしてましたから。

Dさん…入ってます。中野に越してきた時、町会長さんはどなたですかと周りに聞いて、会いに行きました。実家が下町で町会活動が盛んなところだったので、自分も自分の街に住む時は、町会に入るものだと思ってましたから。

Eさん…小学校に上がると町会の当番が回ってくるんですか？ えー！

Fさん…同世代が多いとやりやすいな。じゃないと怖いような……。

Gさん…町会のことはよく知らなくて。なんだか家の外で集まるという発想がないんです。マンションには回覧板も回ってこないし。防災と言っても、家の中でこの子を守ってる感じかな。

Hさん…マンション住まいですが、全員が町会に入っています。いろんな行事をやってくれるんですよ。お祭りも、餅つきも。

つながって未来を守る

配給もトイレも人の縁

3・11後の被災地で子どもの遊び場を作るボランティア活動が続いているNPO代表・星野論さんに原稿を寄せていただきました。

日頃から地域活動に参加していない住民は、物資を後回しにされたり、配給が来なかったりした地域もありました。また、コミュニティが希薄な地域の避難所トイレは言葉にできないほど汚く、使用不可能な状態になっていました。数カ月後初めてボランティアさんが掃除しました。

一方で、震災当日、出張で東北にきていた50代の大工さんが、行くあてもなく避難場所に行く、そこにいた子連れのお母さんが「夫が津波で流され、もう戻らないでしょう。だから、これを差し上げるので着てください」と服やタオルを持ってきてくれました。一週間後、帰る日の朝に、枕元に1万円と手紙が。「これで金沢の家族の元にお帰りください。そして家族を大切に」とあったそうです。

それぞれの「つながり」を大切に、過去・今・未来のご縁を紡いでいってほしいです。

NPO法人コドモ・ワカモノまちing
<http://www.k-w-m.jp>



自然にいつの間にか

「町会だって防災だって、大げさなこととは何もないのよ。暮らしているうちに顔見知りが増え、どういう時に誰を頼ればいいのか分かるようになって、気づくと知り合いがこんなに増えていたんだ、って驚くの」

こう語るのは、東部地区にお住まいのHさん。

海外転勤で知り合いのない場所に住んで痛感したのは、相談相手がいらない不自由。〇〇のことは〇さんに聞こう、というふうに暮らしていけず、不安だったと言います。中野に戻り、地域のお手伝いに復帰、「人に支えられて生きていたのに、いつのまにか支える側になっていました。町会も地域も、体が自然に覚えていくもの。若い人を迎える側も、気張らず、ゆったり待つています」とHさんは笑顔で話してくれました。

まず参加してみよう

東部地区町会連合会の小野会長は「私たちも皆さんが参加しやすいような楽しい行事や、防災のために必要な訓練や情報を用意しています。ぜひ地域に出て、参加してください」と呼びかけています。

地域のマンパワーを育てるために、まず顔見知りを増やしましょう。

コラム なかま

私の健康づくり

齊藤 久
塔山小学校校長



「健全な精神は健全な身体に宿る」ローマの詩人ユベナリスの言葉です。私が走ることを本格的に興味にしたのは30代の前半に勤務したパキスタンの首都イスラマバード日本人学校時代からです。そこでは、毎年11月に「運動会」を開催していました。児童生徒が約30名の学校だったため、大人も子どもも①大使館(外交官)②企業③JICA(国際協力事業団)④学校スペシャル(教員家庭と①③⑤以外の方)の4チームに別れて運動会を行いました。種目の中に中学生以上が参加する約3kmマラソンがありました。私は、毎年運動会を運営する立場だったので、マラソンで頑張り過ぎて、私自身が倒れると他に迷惑がかかると思い、出場は遠慮していました。ところが派遣3年目の運動会では他に出てくれる方がいなく、自分のチームからは私が出場することになり、運動会に向けて、一人でマラソンの練習をしました。それがマラソンを始めるきっかけとなり、40代半ばで体調を崩した3ヶ月を除けば、毎週末は走っています。1月13日(日)福生市の米軍横田基地で開催された「フロストバイトロードレース(21km)」に参加しました。レースが終わった後のアメリカ限定の特ホットドッグやビールは最高でした。



「東部あいあいステーション」ボランティア募集

5月より「東部あいあいステーション」が支えあいのネットワーク拠点として活動を始めます。乳幼児から高齢者まで、ずっとここに住み続けたいと思う地域づくりを旨とし、電話によるお問い合わせへの対応と、ちょっとした困りごとをお手伝いするボランティアの派遣をしていきます。

現在、ボランティアとして活動していただける方を募集しています。電球の取り換えや繕い物、粗大ごみ出しなど、専門的技術が必要でなく、1回30分以内でできるお手伝いをしていただきたいと考えています。詳しくは、東部区民活動センター運営委員会事務局までお問い合わせになるか、下記の説明会へ直接お越しください。東部地域を支えあいの町とするためには、一人一人の手が欠かせません。みなさまのお力をお待ちしております。

なお、これまで高齢者の電話相談事業を担当していた「東部ボランティア」は引き続き昼食会と美化活動を行ってまいりますので、これからもよろしく願いいたします。

ボランティア説明会日程(いずれか1日)

- 1回目 3月11日(月) 14:00~15:00
2回目 3月15日(金) 10:00~11:00
3回目 3月23日(土) 10:00~11:00
会場 宮園高齢者会館 洋室A・B
お問い合わせ 事務局 ☎3363-0631

集会所抽選日 5月分 3月18日(月) 6月分 4月15日(月) 7月分 5月20日(月)

次号は6月発行予定です。

東部の〇〇 第8回 桜川橋



山手通りが中央線の上を通っている陸橋の名称は「桜川橋」。この駅上陸橋は昭和19年(1944年)に完成し、桜山町と氷川町にかかっているもので、1字ずつとりこの名が付きましました。

では、元は川があったのでしょうか? 実はそうではないのです。昔、東中野駅西口側は両側が高い自然の谷になっており、それを利用して、現在の中央線の前身である甲武鉄道線の線路が敷設されたのです。この



昭和7年 東中野駅 桐ヶ谷踏切



現在の風景

陸橋は川にかかる橋ではなく、地名からきた「水のない橋」だったのです。

駅開設当初は東口のみで、交番の前にあつた桐ヶ谷踏切だけが北側へ行く通路でした。昭和になり、乗客増に対応するため東口を改修し、西口も開設となりました。

その後、桐ヶ谷踏切が開かずの踏切となり、渋滞解消策として60m東に線路下をくぐる桐ヶ谷ガードが設置され、桐ヶ谷踏切は閉鎖されました。ちなみに大正6年(1917年)に駅名が東中野駅となるまでは柏木駅と呼ばれていました。

認知症を正しく知りましょう

地域事業報告

平成24年11月28日(水)、東部区民活動センターにおいて認知症サポーター養成講座が東部地区友愛クラブ連合会と運営委員会共催で開催されました。当日は81名の参加があり、「大変役に立った」という意見の他に、「近所の人たちと仲良くし、助け合いが大切」などの声を多くいただきました。内容の一部をご紹介します。

認知症とは?

脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったために様々な障害がおこり、生活に支障が出ている状態のこと。

認知症の方に自覚はある?

症状に最初に気づくのは本人で、「私に限って」というやり場の無い怒りや不安を感じています。

予防はできる?

バランスの良い食事を摂り、適度な運動を楽しく行い、いきいきとした生活を送る、という生活習慣病対策が発症を遅らせると言われます。

認知症の方への対応の心得は?

驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけない、の3つの「ない」が大切です。

認知症かなと思ったら、まず病院で診てもらいましょう。

病院に連れて行くのが難しい?

「私、病院で検査してもらおうのでついて行って」と言って本人を連れ出し、共に検査をしてもらう。(医師に事前に相談しておく)

相談場所は?



TEL: 03-3367-7802 FAX: 03-3367-7800 中央 3-19-1(中部すこやか福祉センター内)



TEL: 03-3366-3318 FAX: 03-3366-3398 東中野 1-5-1

東部区民活動センター 運営委員会ホームページが開設

東部区民活動だより『はなみずき』では載せきれない地域の情報・行事などを公開しています。是非ご覧ください。



東部区民活動センター運営委員会 クリック

http://www.nakano-tobu.gr.jp

編集後記

てんやわんやの状態です。『はなみずき』第1号を発行したのが、平成23年9月。以来、1号1号が綱渡りの広報紙作りです。しかし地域は人材の宝庫でした。ライターにデザイナーに校正者、絵や写真の名人、地域活動の中心で人脈の豊富な人、地域や歴史に詳しい人。住民がそれぞれの得意技を持ち寄って作る『はなみずき』は「楽しくて、少しは役立つ広報紙」を目指します。(F.S.)

